

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字等の言語領域の指導を継続する形にしたことによって、6年生での漢字の書き取りのポイントが向上した。
- ・ペア学習やグループ学習を授業の中で積極的に取り入れたことにより、すすんで話し合う姿勢が身に付き、協働的に学ぶ力が向上した。
- ・効果測定目標値を超える項目が多数をしめた。

(2) 課題

- ・4・5年生の前年度の漢字を問う設問に課題が見られた。
- ・4～6年生で、領域にかかわらず、記述して解答する形式の問題にやや課題がある。また、文章を書く力に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	・基礎力で約11ポイント、活用力で約2ポイント目標値を上回った。 ・話す・聞くの領域で目標値を約7ポイント下回る設問があった。 ・第3学年に配当されている漢字を正しく書くことの設問では10.5ポイント下回った。		
第5学年	・基礎力約8ポイント、活用力で約18ポイント目標値を上回った。 ・第4学年に配当されている漢字を正しく書けているかの問題では、目標値より約10ポイント低い正答率であった。 ・連体修飾語の理解を問う設問では、全国平均より約11ポイント低い正答率であった。	・基礎力で約7ポイント、活用力で約16ポイント目標値を上回った。また、話すこと・聞くことの領域ではすべての設問で全国の平均を上回った。 ・書くことの領域ではすべての設問で全国の平均を大幅に上回った。 ・ローマ字等の言語の力を問う設問では、約6ポイント全国の平均を下回った。	
第6学年	・基礎力で約3ポイント、活用力で約5ポイント上回った。 ・書く力を問う設問では、約9ポイント、約6ポイント下回る設問があった。	・基礎力約8ポイント、活用力で約6ポイント目標値を上回った。 ・「希望」の書き取りの設問では全国の平均から約20ポイント低い正答率であった。 ・連体修飾語の理解を問う	・知識・技能、思考・判断・表現は、目標値を上回った。特に、知識・技能の正答率は3.6ポイント上回った。主体的に学習に取り組む態度の正答率は、目標値を3.9ポイント下回った。（第4学年）

		設問では、全国平均より約14ポイント低い正答率であった。	
--	--	------------------------------	--

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 「第3学年に配当されている漢字を正しく書いている」か問う問題では、74.5ポイントであり、目標値より約10ポイント下回った。 ② 「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」か問う問題では、52.0ポイントであり、目標値より約7%上回った。	① 「司会の役割を果たしながら話し合い、意見の共通点や相違点に着目している」問題では、正答率が約53.1ポイントであり、目標値より約7ポイント下回った。 ② 物語・説明文の内容を読み取る問題はすべて目標値を上回った。特に、「中心となる語や文を見付けて要約している」か問う問題では、正答率が約55.1ポイントであり、目標値より約15ポイント上回った。	① 「自分の考えを明確にして、文章を書いている」問題では、正答率が約73.5ポイントであり、目標値より約7ポイント下回った。 ② 「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書いている」問題では、正答率が約68.4ポイントであり、目標値より約3ポイント上回った。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 5年の漢字の読みは、目標値を上回っているが、書く問題で点数をおとしている。また、国語の基礎を総合的に評価する指数では、75.7ポイントであり、区の平均を7.5ポイント上回った。 ② 6年生の段落を複数設けて文章を書く設問では、約9ポイント下回っていた。	① 5年生の活用力を問う問題の正答率は、78.1ポイントであり約18ポイント目標値を上回っていた。また、区の平均でも約7ポイント上回っている。しかし、文章の記述問題では、正答率が58.7ポイントと目標値より7ポイント下回っていた。 ② 6年生の段落の役割を踏まえて、文章を書く設問では、約9ポイント下回っていた。	① 5年生の記述式の問題の正答率は、46.2ポイントであり目標値を約9ポイント下回っていた。記述式の問題を主体的に取り組む課題が浮き彫りになっている。 ② 6年生の資料から読み取ったことを文章で表す設問では、主体的な態度にやや課題があった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<読む> ・授業や家庭音読の時間を確保し、継続的に取り組む。 ・<u>詩の音読練習</u>を毎日継続して行う。 ・朝のビルドアップタイムに音読・暗唱交流をする。 ・説明文を読んで分かったことや考えたことなどを述べたり、物語を読んで内容や感想を伝え合ったり演じたりする活動を取り入れる。 <書く> ・児童が書くことを楽しみ、書いたものに満足感をもてるように、題材や読み手、用紙を工夫したり、交流会を設定したりする。 ・簡単な段落構成で文章が書けるように、<u>始め・中・終わりで書く指導</u>をする。	・司書教諭や担任による読み聞かせ、読書の時間を通して、図書に触れる機会を増やす。 ・国語の知識や技能、図書資料をすすんで活用するよう、調べて書いたり伝えたりする活動を取り入れる。 ・単元に応じてすすんで読書することにつながるように、教科書で紹介されている図書を廊下に置いて、すぐ手に取れるようにする。 ・詩の音読や暗唱に意欲的に取り組めるよう、様々な詩を扱ったり、練習した詩を聞いてもらう場を設けたりする。 ・意欲的に学習に取り組めるように、<u>ペアやグループ活動、全体での練り上げや対話</u>など形態を変えて学習を行う。
<話す・聞く> ・身近なことなどから話題を決め、<u>スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> ・話題に沿った質問をしたり感想を伝え合ったりして、<u>ペアで楽しくやり取りする活動</u>を多く取り入れる。	
<言語> ・漢字やカタカナを正しく使えるように、日常的に既習漢字やカタカナを使うことを意識させる。 ・定期的に<u>しりとりにことば集めゲーム</u>を行い、語彙力の定着を図る。	

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<読む> ・授業や家庭で音読の時間を確保し継続的に取り組む。その際、漢字の読み取りを強化し、家庭学習で音読を出す時は読み仮名を授業で書かせてから行うようにする。 ・段落相互の関係を捉えさせるために、指示語や接続語にも着目させる。 ・説明文では、段落のまとまりを捉えさせるために、<u>段落ごとに小見出し</u>を付けさせる。	<書く> ・感想や説明、報告の文章を書く際は、具体的に書けるように、文章全体の構成を考えて書く。また、一文を短くし、主語と述語の整合性が合うようにするとともに、接続詞を用いて文と文の関係を明確にして書けるようにする。 ・<u>自分の経験や思いについて積極的に取り組めるようにテーマを工夫する。</u>	・司書教諭や担任による読み聞かせ、読書時間を積極的に設け、様々な種類の本を選んだり、児童に本を紹介したりして、読書の幅を広げる。 ・<u>ペアやグループ活動、全体での話し合いを取り入れる</u>ことで、友達と交流しながら学習できるようにする。
<書く> ・感想や説明、報告の文章を書く際は、具体的に書けるように、文章全体の構成を考えて書く。また、一文を短くし、主語と述語の整合性が合うようにするとともに、接続詞を用いて文と文の関係を明確にして書けるようにする。 ・<u>自分の経験や思いについて積極的に取り組めるようにテーマを工夫する。</u>	<話す・聞く> ・少人数での話し合いの場を設ける。 ・<u>スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> ・テーマに沿った話し合いの場面では、<u>自分と友達の考えの共通点や相違点を考えながら</u>話し合いを進めるよう、ポイントを示す。 ・発表する時には必要に応じて話型を示し、話すことが苦手な児童がすすんで発表できるようにする。 ・話し手のみならず、聞き手を指導する。その際、返事やリアクション時の言葉、タイミングを教えるとともに、話し手が意図的に間をあけられるように指導する。	・漢字ドリルで出てきた進出漢字の熟語を調べる。1日3つの言葉を辞書で引く取り組みをする。 ・分からない言葉が出てきたら、辞書を使って調べる活動を行っている。
<話す・聞く> ・少人数での話し合いの場を設ける。 ・<u>スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> ・テーマに沿った話し合いの場面では、<u>自分と友達の考えの共通点や相違点を考えながら</u>話し合いを進めるよう、ポイントを示す。 ・発表する時には必要に応じて話型を示し、話すことが苦手な児童がすすんで発表できるようにする。 ・話し手のみならず、聞き手を指導する。その際、返事やリアクション時の言葉、タイミングを教えるとともに、話し手が意図的に間をあけられるように指導する。		

<言語>

- ・既習漢字を使うことを徹底して指導し、ノート指導の評価を児童が可視化できるようにする。
- ・漢字小テスト等を実施し、反復して練習に取り組ませる。
- ・ローマ字定着のために、キーボードを使って反復練習する。日常的にローマ字を活用し、意識して使う。(ローマ字日記など)
- ・語彙を増やせるよう、一人一冊の辞書を購入し、辞書を活用しながら学習を進める。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<読む> ・説明文の読み取りでは、文章構成を考えて<u>段落ごとの役割を考えたり、段落ごとに小見出しを付けたり</u>して、書かれている内容や筆者の主張を読み取れるようにする。 ・接続詞に着目し、<u>叙述を根拠に、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える。</u> ・情景描写や心情を表す言葉の理解と活用を促進する。	<書く> ・漢字の小テストの点数が合格点を超えるまで、継続的な指導を徹底する ・決められた制限の中でも文章が書けるように、<u>説明文の要約等において、字数を制限して文を書く場を設定</u>する。(教師が文のレイアウトを示して行う) ・<u>叙述を根拠に、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える必要がある。</u> そのために、段落を計画的に読み取り、考えをまとめる経験をさせる。 ・説明文を読む際は、筆者の考え、事例を確実に読み取り、最後に自分の考えをまとめる(＝要旨)活動を多く取り組ませる。	・朝の時間や図書の時間を活用し、<u>学習内容の関連書籍を紹介したり司書教諭を活用したりして、様々な分類の本に触れさせ</u>、読書の幅を広げる。 ・ペアやグループ活動、<u>全体での話し合い</u>を取り入れ、友達と交流しながら学習できるようにする。 ・詩の暗唱、漢字の音読、マインドマップの活用など、常時活動を積極的かつ継続的に取り組ませる。
<話す・聞く> ・話型を提示し、「はじめに結論、次に理由」などと効果測定の記事形式の問題にも応用できるようなスピーチをする時間を授業内で設定する。 ・<u>少人数での話し合いの場面を多く設け、スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> ・テーマに沿って自分の考えを話す習慣を身に付けさせる。 ・聞いたことを文に表すこと、発言したことを文に表しまとめることを適宜取り入れる。 ・正確に内容を聞き取ることができるように、日頃の授業から集中して話の内容を聞くことや、内容を要点で書き留める力、情報と情報を関連付けて書き留める力を身に付けさせる。		
<言語> ・<u>辞書を廊下に置き、分からない言葉や漢字をすぐに調べる習慣を身に付けさせる。</u> ・週に一回漢字小テストを実施し、反復して練習に取り組ませ、定着させていく。 ・ローマ字を書いたり読んだり、キーボードのタイピングをしたりする時間を授業内に設定し、反復して取り組ませる。 ・発言、記述の時間を増やし、理解した言語を表現する活動を通して、分かる言葉・使える言葉を増やす。		